

月刊 しばうら

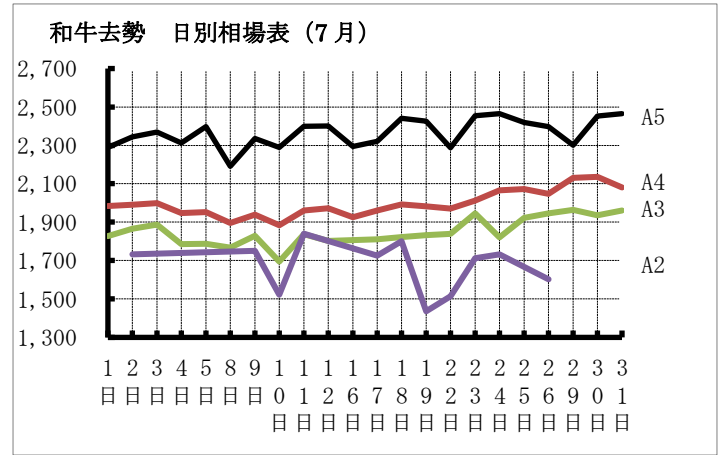
2024年 8月号

牛肉営業部

＜7月の相場動向＞

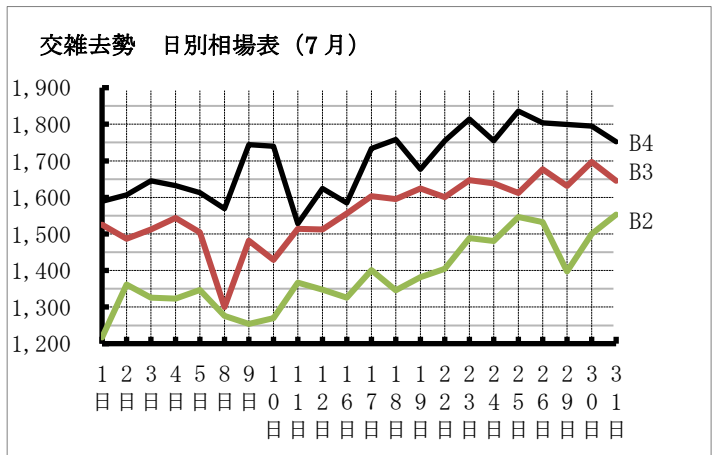
例年、梅雨明け以降は夏休みの行楽需要に向けて引き合いが活発化するところであるが、今年は7月の3週目を過ぎてようやく交雑牛を中心に若干、相場が上昇するのに留まり、和牛は全等級で前月実績を下回る結果となった。

期待のインバウンド需要は、6月の訪日外国人旅行者数が直近4か月連続で300万人を超え、単月としても過去最高人数を記録しているが、ニーズの多様化により牛肉需要の活発化までには至っていない。消費意欲の低迷もあり牛肉需要にとっては厳しい状況が続いている。



和牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,377円	-177円	93.1%	-36円	98.5%
A4	1,989円	-164円	92.4%	-12円	99.4%
A3	1,852円	-83円	95.7%	+6円	100.3%
A2	1,674円	-44円	97.4%	+41円	102.5%



交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,743円	+62円	103.7%	+99円	106.0%
B3	1,601円	+130円	108.8%	+85円	105.6%
B2	1,454円	+168円	113.1%	+93円	106.8%

乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	-	-	-	-	-
B2	-	-	-	-	-

＜8月の牛肉輸入量予測＞

財務省が発表した輸入通関実績によると、6月の輸入量は前年同月比8.9%増の4万7,555tで、うちチルドは7.4%増の1万7,720t、フローズンが9.8%増の2万9,835tとなり、共に前年同月比を上回り、前月比では2.8%減少した。

農畜産業振興機構によると7月の牛肉輸入数量予測は、前年同月比19%増の4万5,900t（チルド10.0%減・冷凍47%増）、8月は1.0%減の4万5,100t（チルド3.0%減・冷凍前年並み）と予測している。

冷蔵輸入量については、現地価格の高騰などにより米国産輸入量の減少が見込まれることから、7月はかなりの程度、8月はわずかに前年同月を下回ると予測している。

冷凍輸入量については前年の輸入量が少なかったことから、7月は前年同月を大幅に上回り、8月は現地価格の高騰の影響で米国産の輸入減少が見込まれるため、前年並みと予測している。

輸入牛肉通関量		6月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	8,604	7,598	113.2%
	米国	7,357	7,626	96.4%
	その他	1,759	1,280	137.4%
	合計	17,720	16,504	107.3%
フローズン	豪州	14,111	10,829	130.3%
	米国	7,915	9,731	81.3%
	その他	7,809	6,600	118.3%
	合計	29,835	27,160	109.8%

出典：食肉速報 単位：t

＜8月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構による8月の出荷予測頭数は、全体で前年比98.8%の8万4,800頭で、品種別でみると和牛は1.2%減の3万7,300頭、交雑種は6.9%増の2万1,600頭、乳用種は2.9%増の2万4,800頭と予測している。

また、東京食肉市場の8月のと畜頭数は6,500頭（前年比3.5%減）を予定している。

＜8月の牛枝肉相場見通し＞

消費者の物価高騰などに対する生活防衛意識は依然として高く、節約志向は継続する見込みであることから、牛肉需要が大きく回復するとは言い難い。また、今年も酷暑が予想されていることから、量販店の来客数は減少が見込まれる。夏休みの行楽需要が一段落する8月後半には、堅調であった交雑牛も在庫量を考慮しながらの調整が入り、軟調相場になることが予想される。

輸入牛肉も高値が続き一部で滞留していることから、月後半には在庫・買い付けに調整が入ると思われる。和牛は秋口から始まる催事産地フェアに期待したい。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,250～2,600	B4	1,600～1,700
A4	1,900～2,250	B3	1,500～1,600
A3	1,800～1,900	B2	1,400～1,500
A2	1,600～1,800		
乳牛去勢			
B3	1,000～1,150		
B2	900～1,000		

豚肉営業部

6月の全国と畜頭数は119万3,058頭（前年同月比10.1%減）と前年を下回った。また、6月の豚肉通関数量は8万1,705t（前年同月比0.3%増）と前年を上回り、前月比では13.2%の減少となった。内訳はチルドが3万230t（前年同月比2.5%減）、フローズンは5万1,475t（同2.1%増）。

2023-2024年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
6	73,486	81,311	19,586	225,208	73,928	80,005
7	68,264	74,831	20,758	220,067	66,926	79,972
8	70,175	73,862	21,032	217,704	69,796	76,225
9	69,500	61,727	21,452	203,477	68,945	75,954
10	78,467	70,100	19,689	192,812	80,065	80,765
11	82,650	74,813	20,154	184,253	82,084	83,372
12	81,152	67,663	21,381	170,120	79,774	81,796
1	80,283	72,051	20,836	173,172	80,748	68,999
2	77,558	64,527	21,439	165,686	76,853	72,013
3	77,333	74,351	23,117	166,119	75,518	73,918
4	78,976	98,780	22,670	174,059	79,317	90,840
5	76,183	94,087	24,239	189,925	74,520	78,221
6	66,310	81,660	24,750	193,156	65,692	78,429
比	90%	100%	126%	86%	89%	98%

出典：農畜産業振興機構 比：最終月の前年同期比 単位：t

6月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	10,797	73.5%	デンマーク	3,999	131.2%
カナダ	16,058	122.6%	スペイン	14,295	97.4%
メキシコ	3,373	104.8%	メキシコ	5,650	63.5%
			アメリカ	7,995	113.2%
			カナダ	5,331	120.8%
合計	30,230	97.5%		51,475	102.1%

単位：t

＜7月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	61,400	804	795	590
2日	63,400	870	850	810
3日	37,800	876	862	626
4日	63,500	877	856	556
5日	58,600	877	862	980
8日	58,600	886	862	797
9日	62,600	903	895	781
平均	57,986/日			734/日

全国的に気温が上昇し、関東でも猛暑日が続いた。全国と畜頭数が全体的にかなり少なく、特に7月3日が極端に少なかったため、相場は実需以上の高値での展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
10日	55,500	918	904	632
11日	57,300	913	899	640
12日	55,900	914	899	834
16日	71,800	895	862	717
17日	63,300	864	825	944
18日	64,400	705	646	868
19日	62,300	670	659	915
平均	61,500/日			793/日

相場は800円を大きく上回り、一時的に900円を超える記録的な相場展開となった。しかし、末端の動きの鈍さからか18日には一気に160円近く急落し、さらに19日には670円にまで落ち込んだ。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
22日	58,900	692	678	815
23日	62,100	750	731	811
24日	57,000	792	781	630
25日	59,000	818	802	530
26日	56,300	831	797	987
29日	59,900	813	785	827
30日	59,200	826	804	799
31日	52,900	810	776	675
平均	58,163/日			759/日

猛暑により豚の増体に大きな影響が出ており、全国と畜頭数は減少した。輸入豚肉は円安や現地価格の高騰から不安定な状況が続いており、買い付けは厳しい状況にある。末端消費は旺盛ではないが、輸入物の品薄感と高値の影響が重なり、相場は25日に800円を超える高値となった。

＜8月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による令和6年8月の肉豚出荷予測では129万4,000頭（前年比99.5%）と予測している。

当市場の8月集荷予定せり頭数は1万5,500頭、1日あたりでは約815頭を見込んでいる。

農畜産業振興機構によると8月分の豚肉輸入見込数量は、総量で8万1,500t（同110.3%）、内訳は冷蔵輸入量が3万1,100t（同87.8%）、冷凍輸入量は5万400t（同131.2%）と予測。

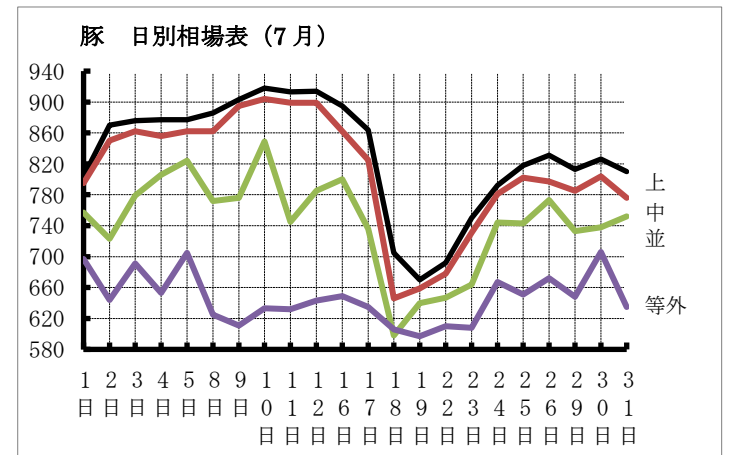
冷蔵輸入量は現地相場高の影響により米国産輸入量の減少が見込まれることから、大幅に前年同月を下回ると予測する。一方で3ヵ月平均では前年同期をやや下回ると予測する。

冷凍輸入量は米国産及びブラジル産の輸入量増加が見込まれること等から、大幅に前年同月を上回ると予測する。同じく3ヵ月平均では前年同期をかなり大きく上回ると予測する。

相場の見通しは、8月初旬は盆休みに向けた手当てなどから、相場は高値で推移するとみられるが、休み明け以降は消費者の節約志向の高まりと、学校給食の再開に向けてスソ物の引き合いが強くなる一方で、中部位の荷動きが鈍くなることで、相場は落ち着くことが予想される。

供給面では、盆休みによる連休で稼働日が減ることから出荷頭数は一時的に増えるが、休み明け以降は猛暑による増体不良の影響で減少する見込みとなっている。

以上のことから当市場の上物平均価格は750円前後、中物平均価格720円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127